



© JFA / PR



VOL.38 2022.1.25

普及コーディネーター取り組み事例紹介①

福岡県

木下 温子さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

かつて0-30出場していた選手たちは0-40への出場には至らず、また0-30年代の選手たちは活動の場がなくフェードアウトしている。日常的に女性がサッカーをすることができる場を創り出す必要がある。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマ<0-30でも輝き、楽しむ>

九州女子0-30サッカー大会は12月に福岡県開催の予定であったが、新型コロナの影響により出場辞退が相次ぎ、沖縄県と福岡県が予選なしで全国大会の切符を手にした。九州大会だけでも楽しみにしていたという声を聞き、「JFA女子サッカーデー」の事業として「0-30女子エキシビジョンマッチ」の開催を計画しているところである。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

市民総合スポーツ大会福岡市長杯女子サッカー大会は今年で23回を迎えた。主催である(公財)福岡市スポーツ協会から、本大会を広く女子サッカーの普及のために用いることを推奨してもらっているため、昨年に引き続き審判委員会の協力のもと「審判普及活動」、さらに「0-30女子エキシビジョンマッチ」を開催することとした。出場13チームの選手たちが0-30大会があることを知る機会ともなり、女子サッカーを

生涯スポーツとして認知してもらうことができる。また、福岡県0-30vs他県0-30では、他県の選手たちへも楽しみの場を提供することができる。

【今後の目標】

0-30選手たちの定期的な活動の場の創出。現在、子どもを対象として開催している「なでしこひろば」に並行して、大人の女性を対象としたカテゴリーを創ることで、月1回程度の活動を確保することができる。女子サッカーも生涯スポーツの1つとして認知されるよう、まずは、「場の提供」から開始したい。2月に開催予定の「JFAレディース／ガールズサッカーフェスティバル」では大人の女性にもサッカーを体験してもらい、楽しさを味わい、「なでしこひろば」の大人のカテゴリーで定期的な活動の場となるよう導きたい。さらに、0-30、0-40の大会に出場したいというモチベーションとなり、自発的に活動を始めるよう繋げたい。

普及コーディネーター取り組み事例紹介②

佐賀県

寺井 裕子さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

年間を通して、なでしこひろば・ガールズ&レディースフェスティバルの開催を行う事ができ、たくさんの方に参加していただいている一方で、大々的な新規参加者の獲得に繋がっていないのも現状です。毎回恒例となり、また参加しよう！というリピーターはしっかりと獲得できているので、その先のあと一歩で今後の新規参加者、ゆくゆくは女子サッカー人口の増加に繋げていきたい。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマ＜居住地域から女子サッカーの場を！女の子同士でサッカーをする時間と環境を作る＞

昨年より継続して、地域からの女子サッカーの普及活動を目標に取り組んでいます。今年は、コロナの影響もあり、大会が開催されないなどの理由で地区トレセン内で希望する女子選手同士でのカップ戦参加が1回しかできず、残念な思いをしました。(年3回のカップ戦参加予定でしたが…。)しかし、新しい取り組みとして隣地区のトレセンと合同練習をする機会を設けることができました。まだ1回のみの試行段階ですが県トレセン活動以外にも女子選手同士が刺激を受けあう機会を持つことが出来るので今後も活動できるように取り組みを進めたいと思っています。普及コーディネーターとして、これからも人と人を繋ぐ役割を果たしていきたいです。

【今後の目標】

昨年のレポートに、今後の目標として掲げた

【参加しやすい・活動しやすい】【行きやすい・

開きやすい】【またやりたい・また来てもらいたい】

と参加者・主催者のどちらもが気軽にサッカー交流が

できる場を作りたいと考え取り組んできました。現在

私の所属チームの練習日に合わせて【城東ガールズ】

という、体遊び・スポーツ教室を不定期で開催して

います。参加費無料で、年中～3年生までの女の子が

対象です。その中でボールを使った遊びや、サッカー

ごっこを取り入れることで、サッカーへの興味を持って

もらうことを狙っています。ゆくゆくは、キッズサッカーフェスティバルや、親子フットサル大会などにも参加出来たらと考えています。現在、お友達登録18名まで増え、今後の活動が楽しみです。





普及コーディネーター取り組み事例紹介③

長崎県

阿部 麗さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

(現状)

- ・ Jクラブが女子サッカーの普及に尽力いただくようになり間口が広がった。
- ・ 次年度より中学女子サッカー部2チームが創部予定。県内の受け皿増に。

(課題)

- ・ 「点の活動」となっている。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

今年度は、女子委員会のフェスティバル担当者の転勤で、機動力のある貴重な人材が流出してしまった。打ちひしがれる状況の中、自身の動ける範囲で重点的に取り組んできたことは、①仲間を増やすこと②女性指導者や審判への後押しの2つ。①については、若手女性指導者とレディース年代の選手の方が仲間に加わっていただき、新たな可能性を模索しているところだ。②については、大学生年代を中心に、興味のある学生の背中を押すことを心掛けている。今後、第一線で活躍されている指導者や審判の方を招聘し、誰かにとって、何かの「きっかけ」になる時間を提供できるようにしたい。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

(FAとの関わり)

普及Cの活動を模索する中、変わらず温かいサポートをしてくださっている。日程の都合上、参加が叶わなかったが、登録拡大事業「よかけん かたらんね!!サッカーフェスティバル」では、県協会、諫早市協会、キッズ／シニア委員会、Jクラブが協働し、親子3世代にわたってサッカーを楽しむ時間が用意された。協働できる関係性は長崎の強みだと改めて感じた。

(Jクラブとの関わり)

V・ファーレン長崎が女子サッカーの普及にも力を入れてくださるようになり、一般の方に対して、女子サッカーの間口が広がってきた。また、女子委員会とVファーレン間で情報交換会を行った。今後の活動に向け、良い関係を築いていきたい。

【今後の目標】

課題を「点の活動になっている」と挙げたが、点と点を結んで線にすることだけが解決方法ではないと考えている。独自に工夫を凝らして普及活動をされていらっしゃるチームも県内には多くある。他県の取り組みも参考にしながら、点の活動をサポートし、点がいつか円になるような、そんな仕組みを探っていきたい。また、仲間づくりに関しても、円を広げていき、サッカーをより身近なスポーツにできるよう一歩ずつ取り組んでいきたい。



普及コーディネーター取り組み事例紹介④

熊本県

大石 七美さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

熊本では県女子トレセンの充実を図った事で5年生の普及と参加選手の定着度は上がったと思います。但し、中学部活動生の参加率にはまだ課題を感じております。また低年齢層・大学生年代も大きな課題となっております。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマ＜中学フェスティバルを通じた取り組み＞

今年度、JFA中学フェスティバルの地元開催企画を頂きました。これまでも県トレセンとして種別総会や中体連関係者への呼びかけを続けてきたつもりでしたが、統計からみるチーム参加率はそう上がっておらず課題となっておりました。当初は連合チームで呼びかけを行いました但し難航し、フェスティバル形式にて個人参加を募りましたところ、県内13中学校より22名の選手が参加をしてくれました。チーム対抗戦企画でしたが、コロナの影響からトレーニング形式となりましたが、それでも楽しみながらもテクニカルな面も求められる充実のプログラムで行って頂き、選手達は非常に良い経験を得る機会となりました。またこの事業にて部活動女子選手が100名程との存在確認をすることができました。うち、女子サッカー部は1校のみ。残り88名は男子と共に活動する選手です。この選手達が今後高校・大学・社会人になってもサッカーを続けてくれるよう、県独自の取組が必要である事を改めて認識し、継続的な取組(中学フェスティバルの県内版)を計画中です。また小学生地区トレセンにて、女子選手の受け入れ展開を始めて頂いており、9地区中2地区が開始、数地区が展開予定との事でトレセンの周知に繋がって行くことを大きく期待しております。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

今年度は、登録拡大推進事業が始まり、KFA 第1回熊本県なでしこU-10サッカー（5人制）が女子委員会主導にて10月に初めて37名のU10/9の選手を迎えて開催されました。また1月には新春！熊本県なでしこサッカー・フォーラム、として同じく女子委員会主導にてWEリーグに所属する選手やプロ指導者・審判とオンラインミーティング形式にて開催を企画されております。また、ガールズフェスティバルは継続的に開催しておりますが、コロナの影響にてミニマム開催となり、以前のような参加数が確保出来なくなりました。その為、開催形式や周知方法等の再検討を行う予定で、キッズ委員会と連携を深めながら進める予定としております。尚、サッカーフェスティバルスタッフは一般クラブの熊本ルネサンスさんが全面的に協力をして頂き、多くの有資格女性スタッフにて迎える事が出来ております。今後も多くの女性スタッフが関わる機会としても開催を続けて行きたいです。

【今後の目標】

次年度の中学フェスティバルも地元開催での予定を頂いており、この機に多くの女子中学生選手達の新たな活動機会へと繋げて行きたいです。9月のフェスティバルでは、普段別の競技をしているが、サッカー好きであったりサッカー経験がある事を知っていた学校の先生の勧めで応募をしてくれた選手がいました。また、フェスティバルを経験した事で、進路を考え直し女子サッカー部のある学校を目指しますとコメントを残してくれた選手がいました。こういったきっかけ作りになる事を示してくれた良い機会でした。この機会を大事にすることで中学生の普及にも発掘へも、そして強化へも繋がって行く事を目指して参りたいと思います。



普及コーディネーター取り組み事例紹介⑤

大分県

高松 大樹さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題（フェスティバル等）】

現状特に新しい動き（計画・実行）はない。女子委員会のみに任せるのではなく大分FA全体の取り組み・課題として女子サッカーの方向性を決めて進んでいかなければならない。特に女性指導者の育成が課題であるとする。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマくなでしこひろばの拡大>

今年度は新型コロナウイルスの影響で、なでしこひろばの開催が少なかったこともあり、来年度は県下全域になでしこひろばを開設していきたい。なでしこひろばフェスティバルの開催、地域対抗で試合を行う事ができるように動いていきたい。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

佐伯市ではヴェルスパ大分レディースを中心に月に一度なでしこひろばを実施しています。

佐伯市サッカー協会主催で教育委員会の後援をもらっており、学校でのチラシ配布に協力をもらっている。また、チラシ裏面に地域の企業から広告協賛を頂くことで、子どもたちの無料参加を可能にしている。

【今後の目標】

各カテゴリー、各種委員会と連携しながら活動していきたいと思います。特にキッズ委員会との連携強化を図っていきたい。大分県女子サッカーのビジョンとしてちびっこからシニアまでサッカーに携わり楽しむ環境づくりに努めていきたいと思います。



普及コーディネーター取り組み事例紹介⑥

宮崎県

日高 和朗さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

登録者数の減少や指導者不足という状況にあり、3種・4種年代では男子と一緒にチームで女子選手が所属しプレーしていますが、カテゴリーが移行するときに3種・2種と受け皿になる女子チームが少ないこともあり継続する選手の減少が顕著であり、県外高校への進学を選ぶ選手も多くなっている。トレセンや普及練習会、フェスティバルなどで競技力向上を図り選手の流出や引退に歯止めをかけていきたい。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

4種指導者・トレセン指導者の方々へ働きかけを行い各地区の方々のご協力によりフェスティバルを開催。別々のチームで活動している選手たちが合同トレーニングを行い、参加することで女子だけの活動を知ってもらうきっかけになったと思います。これからも継続・向上していけるように各種委員会と連携をとって行っていきます。これまでの活動を継続し、これまで関わりの少なかった女子種別の担当者やクラブなどにも協力をもらい活動を行っていきたい。



【FA、自治体、クラブ等との関わり】

なでしこリーグ参入を目指す女子サッカーチーム「ヴィアマテラス宮崎」があります。選手を地域おこし協力隊として町が雇用し、運営費は事業に賛同する企業の寄付金を充てるなど、競技に専念できる環境を整備され活動されています。本年度は九州女子サッカーリーグ2部で全勝優勝し2022年度は1部で活躍されるものと思います。宮崎県から

プロチームが生まれ、県内の女子選手が県内に残りプロサッカー選手を目指せる環境が構築されれば、県民の女子サッカーへの関心が高まり、女子選手の人口増加や競技力向上も期待ができるため、今後の動向に注目したいチームです。また普及にも力を入れられておりますのでなでしこひろばやフェスティバルなどで連携出来るように良い関係を作っていきたいと思います。

【今後の目標】

女子の活動をスムーズに取り組めるような組織を作っていくことを目標に短期・中期・長期で解決、改善できるように各種問題をアンケート等で抽出し、女子委員会とディスカッションを行い、より良い環境を提供できるようにしていきたいと思います。4種に在籍する女子選手については、今後も引き続き4種委員会と連携を取りながら、トレセンやフェスティバル等で女子サッカーの楽しさを感じて3種での選手継続を促していきたい。また、3種の女子選手については、中学校や男子クラブ登録の選手が県内に多数いることから連携して啓発を行いトレセンやフェスティバルに参加して頂けるようにしていきたい。携わる指導者の所属チームを度外視して県内での活動への後押し、県外への選手の流出に歯止めをかけるためにも現存のチームを紹介し選手だけではなく、サッカーに関わる指導者や審判などを増やしていきたいと思います。



普及コーディネーター取り組み事例紹介⑦

沖縄県

高良 桃子さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

2021年度4月12日～まん延防止等重点措置、5月23日～9月30日緊急事態宣言により、沖縄県は長い期間活動が制限されています。

フェスティバルの開催は感染症対策の観点から、本年度は開催できておりません。U-12年代からU-15年代への切り替えの時期にサッカーから離れる選手を減少させ、U-12年代のプレーヤーを増やすことを目標にしてきましたが、現状、計画してきたことに着手できていない状況です。厳しい状況ではありますが、県協会、女子委員会、協力者の皆さんと協働して普及活動を継続していけたらと思います。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマ<多くの『人』に出会い、『つなげる』>

『なでしこひろば』、キッズ『巡回指導』などで出会った子どもたちをフェスティバルへの参加を促すため、キッズ委員会との連携を図っています。

県内各地区で『なでしこひろば』を開催し、地域の指導者の皆さん（特に女子に関わっている指導者の皆さん）にお手伝いいただくと同時に、その地域の女子の活動に参加できるよう、指導者と参加者を繋げる場となっています。また、前年度より継続して3種女子の年代の選手と関わりながらのなでしこひろばも開催しています。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

沖縄FAでは毎年『市町村サッカー協会委員会』主管で「沖縄県市町村対抗女子サッカー大会」を開催しております。2021年度も2020年度に引き続き、県内各市郡から10チームが参加し、多くの女性がサッカーを楽しみました。大会運営に関しては、各市町村のサッカー協会が行い、各地域間の交流も図られました。このような場で、各市町村協会の関係者にアプローチし、各地域でのフェスティバル、なでしこひろば、巡回指導等の開催について打診し、意見交換することができました。今後の活動に繋げていけたらと思います。



【今後の目標】

新型コロナウイルスの影響により、計画通りに活動ができない状況ではありますが、粘り強く各地域で女子・キッズの普及に尽力している皆さん、各委員会の皆さんの力を借りて、多くの女性がサッカーをする機会を増やしていけるよう努めていきたいと思っています。少しずつではありますが、なでしこひろばを開催しながら、多くの出会いを創出し、地域のサッカーファミリーの皆さんに繋げ、小学生、中学生年代の活動の場を広げていきたいです。



なでしこひろば

改めまして「なでしこひろば」の「お申込み」から「初回開催」までの流れをご紹介します。まわりで、ご興味のある方がいらっしゃいましたら、共有をお願いできたら幸いです。

バナーやスタンプ、スタンプカード、ステッカーなどの「ツール」につきましては、初回開催のご申請をいただき、その開催が承認されてからになりますので、ご注意ください。

また、なでしこひろばを開催していただいたあとは、お手数ではございますが、参加人数の報告をお願いしております。活動の様子を知る、貴重な情報になりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします！

<お申込みから認定、初回開催までの流れ>

1

なでしこひろば公式サイト専用フォームからお申込み

施設	スクール	チーム
フットサル場やサッカー場などの施設を運営している団体がチーム、当該施設にて『なでしこひろば』を実施するケース	サッカースクールやフットサルスクールなどの運営者が、『なでしこひろば』を実施するケース	各サッカー/フットサルチームが、チーム活動の一部を『なでしこひろば』として活動を行うケース
WEB >	WEB >	WEB >

2

事務局にて、お申込み内容を確認
(推奨項目・開催時の1回の料金 等)
※お申込み承認まで20日程度かかる場合もございます

3

お申込み内容の確認後、「承認通知」メールを送信
その際、別メールにて「告知用フォーマット」も送信

4

なでしこひろば、初回開催のご検討
開催が決まったら、公式サイト「運営者マイページ」からログインの上、開催申請
(ログインする際、「承認通知」に記載のID・パスワードが必要になりますので、大切に保管してください)
※開催承認までお時間がかかる場合がございますので、なるべく早めにご申請ください

マイページログイン



運営者マイページ >

ID:

パスワード:

☐ IDを保存する

パスワードを忘れた方はこちら>

ログイン >

IDを忘れた場合は事務局にご連絡ください。

5

開催内容の確認後、「開催承認」メールを送信
☆開催の告知をお願いします！
同時に、初回開催でご活用いただく「ツール」を発送
※ツール発送は開催の承認後となります



6

なでしこひろば開催後「運営者マイページ」から
初回開催報告・参加人数報告
☆次回開催のご検討もお願いします！



バナー、スタンプカード、ステッカーなど
なでしこひろばの開催でご活用ください！

【開催の様子をご紹介します】

◆翔英学園（鳥取県）12月5日（日）初回開催

全国的に課題となっている「女子中学生がサッカーをする場」を創設するため、翔英学園北斗中学校・高等学校にて「なでしこひろば in 北斗」を実施しました。

対象年齢は、小学4年生から中学3年生で、今回は9名が参加してくれました。今回参加してくれた9名は、女子のクラブ、4種のクラブ、中体連に所属と様々でした。この場が交流の場となってくれたことは嬉しいです。

今回は、ある程度のサッカーレベルにある選手たちが集まってくれたので、「前を向く・ゴールに向かう」をテーマにし、ターンやワンツー、相手を抜いてシュートを打つことに取り組みました。

最初は口数も少なく緊張感を感じましたが、時間の経過とともに笑顔が見られ、やればやっただけ上手くなり、ゲームでは果敢にチャレンジする姿が見られました。

2・3月も開催する予定なので、是非参加して欲しいです。

鳥取県西部地区には中学・高校のクラブチームが存在しないこともあり、2022年4月からU18女子クラブチーム「HOKUTO SOARER FC（北斗ソアラ FC）」を発足します。生活圏内でサッカーが出来ること、中体連と女子チームは2重登録が出来ることを踏まえて、サッカーが好きな女の子達のサポートしていきたいと思います。そして、普及活動として「なでしこひろば」を継続していきたいと思います。



◆FCGarenIZU（静岡県）12月12日（日）初回開催

伊東市の小室山総合グラウンドにてJFAなでしこひろば in 伊東 by FCガレンイズを開催しました。年中長児の子たちはお母さんと一緒に10名、小学生の子たちは13名に参加いただき、鬼ごっこ→動きづくり（ステップワーク）→ボールフィーリング→ドリブル→ゲームを行いました。

参加してくれた女の子は、普段からサッカーをやっている子も、今回が初めてサッカーをやる子もいましたが、みんなで声をかけあいながら終始笑顔が溢れる活動ができて良かったです。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

これからも女子サッカー普及のために、女の子が楽しく活動できる場としてなでしこひろばを盛り上げていきたいと思っています。



◆FCカルパ（神奈川県）12月29日（日）初回開催

12月29日（水）に横浜市緑区の十日市場少年スポーツ広場でJFAなでしこひろば by FCカルパを開催しました。

【参加人数】

未就学児4名、小学生20名、中学生3名の計27名

【内容】

- ① おじょうさん（おにごっこ）
- ② コーン当てリレー（パス&コントロール）
- ③ ボール運びゲーム（ドリブル&パス）
- ④ ウォーキングサッカー
- ⑤ ゲーム（8×8）

【報告】

当クラブとして初めて開催するなでしこひろばだったため、子どもたちが集まるのだろうか？集まってくれた子どもたちに楽しんでもらえるのだろうか？と不安だらけの開催となりましたが、結果的には、予想以上の子どもたちが参加してくれ、笑いが絶えない中で時間を過ごせたことが何よりの成果だったと思っています。

内容は初心者でも楽しめるメニューとし、まずは楽しむことを優先しながらも基本的なテクニックを意識づけられるように工夫しました。

今後の課題としては、リピーターを増やすためには一定の頻度での開催が必要と感じているので、そのための会場確保が当クラブとしての課題です。また、なでしこひろばを開催する大きな目的の一つは、サッカーというスポーツに初めて触れるお子さんを増やすことだと思っているので、そのようなお子さんに参加して頂けるための広報活動やツールに工夫が必要であることを強く感じました。



【なでしこひろばデータをまとめてみました】

全国都道府県別認定団体数及び2021年12月開催申請数

都道府県	団体数	開催 申請数	都道府県	団体数	開催 申請数
1 北海道	16	5	25 滋賀県	7	4
2 青森県	5		26 京都府	8	2
3 岩手県	5	5	27 大阪府	18	1
4 宮城県	11	3	28 兵庫県	10	
5 秋田県	3	2	29 奈良県	3	1
6 山形県	2		30 和歌山県	3	
7 福島県	2		31 鳥取県	6	4
8 茨城県	9	3	32 島根県	1	
9 栃木県	16	6	33 岡山県	11	8
10 群馬県	5	1	34 広島県	9	
11 埼玉県	36	7	35 山口県	2	
12 千葉県	12		36 香川県	6	
13 東京都	59	5	37 徳島県	5	4
14 神奈川県	24	1	38 愛媛県	3	
15 山梨県	6		39 高知県	2	
16 長野県	11	4	40 福岡県	13	2
17 新潟県	7	2	41 佐賀県	6	1
18 富山県	4	2	42 長崎県	6	
19 石川県	6	1	43 熊本県	4	
20 福井県	5	2	44 大分県	5	1
21 静岡県	12	4	45 宮崎県	3	2
22 愛知県	20	3	46 鹿児島県	2	
23 三重県	10		47 沖縄県	8	2
24 岐阜県	5		合計	432	88

【2021年12月データ】

- ・全国登録団体数 : 432団体
- ・新規登録団体数 : 1団体
- ・認定団体数の全国トップ3
 - 1) 東京都 (59団体)
 - 2) 埼玉県 (36団体)
 - 3) 神奈川県 (24団体)
- ・全国開催申請数 : 88開催
(11月開催申請数は94開催、6開催減)

少し時間がたってしまいましたが、2022年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

1月に入り、全国的に感染者数が急増し、心配な状況が続いています。さらには各地での大雪や地震、津波など、天候による災害も懸念されますが、皆様、引き続きくれぐれもご自愛の上、お気をつけてお過ごしくださいませ。すでにご申請いただいた開催のキャンセルなどのご連絡もいただいているところですが、くれぐれもご無理のないよう、ご検討いただけましたら幸いです。

【事務局の受け付けが変更になりました】

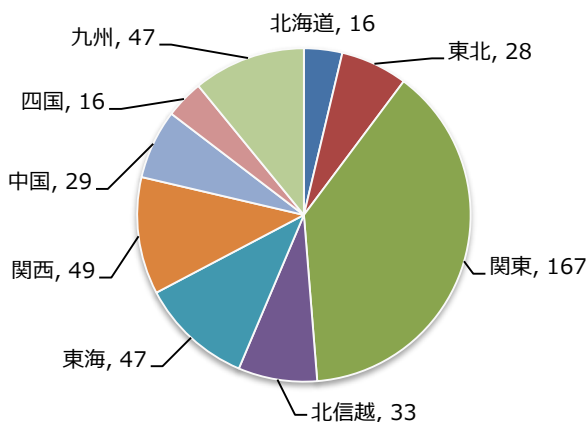
2021年4月から、なでしこひろば事務局の受け付け・お問い合わせ方法をメールのみの対応とさせていただきます。

これまでの電話受け付けがなくなり4月1日以降はメールのみの対応とさせていただきます。各団体様にはご不便をおかけいたしますが、何とぞご了承のほど重ねてお願い申し上げます。

E-mail : info@nadeshikohiroba.jp
(今までのアドレスと変更ありません)

地域別認定団体数

北海道	16カ所
東北	28カ所
関東	167カ所
北信越	33カ所
東海	47カ所
関西	49カ所
中国	29カ所
四国	16カ所
九州	47カ所
【合計】	432カ所



<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

※次回は2022年2月14日（月）ごろ配信予定です。お楽しみに！